

「さいたまには こんなにも文学がある」

展示期間：7月3日（火）～20日（金）

さいたま市には、ゆかりのある作家がいたり、舞台にした作品があり、
それらの貴重な作品をさいたま市図書館では多く所蔵しています。

これらの作品を読みながら、わがまちさいたま市を見直してみませんか。

～ さいたま市にゆかりのある作家たち ～

- | | | | |
|--------|---------|-------|-------|
| ・石井桃子 | ・市川拓司 | ・井伏鱒二 | ・円地文子 |
| ・大木実 | ・大谷羊太郎 | ・大西巨人 | ・大西民子 |
| ・おかべりか | ・荻原浩 | ・加藤克巳 | ・佐藤紅緑 |
| ・神保光太郎 | ・真保裕一 | ・瀬田貞二 | ・武田泰淳 |
| ・太宰治 | ・立原道造 | ・寺田寅彦 | ・土岐雄三 |
| ・野上弥生子 | ・長谷川かな女 | ・濱野京子 | ・平野萬里 |
| ・星野紗一 | ・松井今朝子 | ・三田完 | ・水上勉 |
| ・宮澤章二 | ・ゆきた志旗 | ・吉田修一 | ・吉村昭 |

など

さいたま市ゆかりの作家

さいたま市ゆかりの作家が書いた本は、武蔵浦和図書館2階奥の「地域資料コーナー」にまとめて並べています。

この中から、人物とその著書を一部ご紹介します。

○長谷川かな女（はせがわ かなじょ）

明治20年10月22日～昭和44年9月22日。俳人。

浦和市名誉市民、紫綬褒章等の栄誉を受賞。別所沼畔に「曼珠沙華あつまり丘をうかせけり」という句碑がある。

『牟良佐伎 句集』東京美術 1969年

○立原道造（たちらは みちそう）

大正3年7月30日～昭和14年3月29日。詩人。建築家。

大学生の頃から浦和の神保光太郎の所を訪ねており、特に別所沼の風景が気に入っていた。本人の作品には埼玉は出てこないが、立原道造に関する書籍には、大宮や浦和などの地名が散見される。現在、別所沼には、立原道造が設計したが、生前に建設することができなかった「ヒアシンズハウス」（平成16年完成）がある。

『立原道造詩集（現代詩文庫）』思潮社 1982年

『僕はひとりで夜がひろがる 立原道造詩集』

パルコエンタテインメント事業部 2010年

○大西民子（おおにし たみこ）

大正 13 年 5 月 8 日～平成 6 年 1 月 5 日。歌人。

昭和 24 年に大宮市に移住し、埼玉県教育委員会職員となり、
埼玉県立図書館での勤務経験もある。大宮市文化賞のほか、紫綬
褒章も受賞している。

『野分の章 大西民子歌集』 牧羊社 1979 年

○大木実（おおき みのる）

大正 2 年 12 月 10 日～平成 8 年 4 月 17 日。詩人。

戦後大宮市に転居し、大宮市役所に勤務経験がある。

『きみが好きだよ』 童話屋 2008 年

さいたま市が出てくる作品・関係する作品

武蔵浦和図書館で所蔵している作品を一部ご紹介します。

『ああ玉杯に花うけて（講談社文庫）』 佐藤紅緑著 講談社 2014 年

明治末期から昭和初期にかけて旧制浦和中（現県立浦和高）や
埼玉師範、旧制浦和高（ともに現埼玉大）があった鹿島台という
街並みが舞台となっている。

『ランドマーク（講談社文庫）』 吉田修一著 講談社 2007 年

大宮の再開発地区（現在のシーノ大宮あたり）で、架空の 35
階建て高層ビルの建築現場を軸に物語が進む。

『奇跡の人』 真保裕一著 角川書店 1997年

さいたま市浦和区元町三丁目や、北浦和公園、県立近代美術館など実在する場所が、ぼかしながら描かれている。

『人間失格（角川文庫）』 太宰治著 角川書店 2007年

この作品を太宰治は、大宮氷川神社の参道に面した大門町で書き上げた。

『誘拐ラプソディー（双葉文庫）』 荻原浩著 双葉社 2004年

荻原浩氏の出身地である旧大宮市を舞台にし、郷土愛を表したかったと語っている（単行本を出版した当初は合併前で大宮市だった）。

『レガッタ!』 1～3巻 濱野京子著 講談社 2012～2013年

県立浦和第一女子高校ボート部をモデルにした小説。

このリストに掲載している図書は、貸出や予約（順番待ち）ができます。

さいたま市図書館ホームページ

<https://www.lib.city.saitama.jp/>

編集・発行 さいたま市立武蔵浦和図書館

さいたま市南区別所7-20-1

Tel 844-7210 Fax 844-7207

平成30年7月